



23回目の婦人暑期大学



富士山のように高い教養は、一朝一夕に身につくものではありません。市は、市民の皆さんのがんばりを高めるための催しを各種行っていますが、7月23日には婦人夏期大学が開かれました。

婦人夏期大学は、女性の意識・教養の向上を図るため、婦人会を主体に毎年行われています。

23回目のことしも、会場整理券が飛ぶように売れただけあって、会場の富士文化センターは満員盛況でした。

午前の部は、「美しい林住期—女ざ
かりからの出発—」をテーマに作家の
桐島洋子さん、午後の部は、「笑いと
人生」をテーマに落語家の三遊亭円楽
さんの講演で、参加者は暑さもどこえ
やら、しっかりと聞き入っていました。

「おのう、済みません、市
の統計を教えてください」と
夏休みの宿題で図書館を訪れ
る少・母学生が少へなりてき
ました。最初のうちは、親切
に教えてくれたおねんタシフも
最近は閉口れみ。ところのわ
の」と思つてしまふ生が多い
からです。ノートに細やかに
勉強はむこのでしょか。あ
なたはどう思つますか?



伝法の千代田町にもある三十三番神社は、神社であるのに仏式でお参りをします。今回は、三十三番神社のことを、伝法二丁目の松沢寿夫さん（六十七歳）と千代田町の吉岡義信さん（六十一年歳）に教えていただきました。

す
し
お宮の門に廻る
弥生通りと伝法沢川が交差する
信号を北に歩くと、左手に木立む
こ囲まれた六角的な神社があつます

お参りをする人々は「南無妙法蓮華經」といふ堂の前に大きな鐘もさらず、かり、れつとしした神社ですが、お参りをする神様です。

内陣には、間口が百六十センチ
奥行きが一百一十センチの厨子が
あります。この厨子は、つくりられ
てから百年以上たつてこられたう
だけあります。社殿です。

三十五番神は、この中に整然と鎮
座してます。一體は十五センチ余
りで塑造、神々しく輝かれて見え
ると同じですが、三十五体それ
ぞれ微妙な違いがあります。

神社の前にある題目



△三十番神さん



△ 批評さん(左
と右)圖れん

また、
「おまのせ」には文久元年
(一八六一年)と明治廿七年の差額も
あります。

「おまのせ」たゞか、「おまのせ」の地域の先
人の信仰心や文化活動の幅広さを推
しはかる」とがであります。

前、このあたりに根回り二ひろ
もある柚の木がありました。
治安1年(1011年)大地震が
あつたとき、斬切りの農民秀安と
いえ人が、その木の葉を全國に
配つて祈りました。すると、た
ちまち地震がおそれ止めだったので、
地頭はその功を賞して黄金何枚
かを与えたといわれます。
その後、この村を柚ノ木村と
呼んだと伝えられてこます。



地
方
中
國
來